

課題	解 決 策		
	個人	地域住民	行政・社協・専門機関
高齢者の買物・通院 公共交通問題 商店がなくて不便	<p>家族で支える。隣り近所で支え合う。 近所の高齢者の買物くらいは手伝える。 近所の人を誘って買物に行く、車に乗せてあげる。 頼み易い関係を作る。 運転ボランティアに参加する。</p>	<p>隣り近所が買物。 送迎ボランティア等の育成、地区での組織化。 NPOなどを組織して有償ボランティア輸送を組織・運営する。 自治会の中で買物をしてくれるボランティアを組織する。 生協などの移動販売を利用、巡回スーパー車を誘致する。</p>	<p>地域住民組織作りへの助言・支援。 NPO法人、有償ボランティア団体に支援・助成。 移送サービスを行うNPO法人の設立。 地域通貨を活用する。 タクシー券を出してくれないだろうか。 道路の整備、段差の解消、歩道の拡張。 巡回バスの路線の見直し。</p>
災害時に高齢者、障がい者をどう連れ出すか 高齢者世帯への援助体制づくり 災害時・緊急時の対応	<p>隣近所の安否確認。 個人が隣近所を普段から気に掛けておく。 近所同士の信頼関係、仲間づくりをする。 いきいきサロンへ誘う。 個人で防災無線などを聞こうとする姿勢。</p>	<p>自治会・班を通じて日頃からどういった方が住んでおられるか状況把握しておく。 独居・日中独居高齢者の把握をする。 アパート等の自治会未加入世帯の把握に努力する。 ネットワーク化をし、一人ひとりを誰が見るのかを決める。 活動する組織の規模を小さくし、参加し易くする。 自主防衛体制をつくる、自治会で非常的にそなえる。 ボランティア活動。</p>	<p>災害時等のために独居の高齢者の状態を把握しておく。 個人情報の開示。 防災無線の使用を地域住民にも許可する。 防災無線が聞き取り易いかどうか、設置場所をチェック・確認して欲しい。 緊急物資の各自治会への設置。 避難場所の拡大。 災害時対応のため市職員が地区の担当制をもつ。 民生委員の積極的関与を促す。 緊急通報システムの増設。 組織づくり。</p>

課題	個人	地域住民	行政・社協・専門機関
<p>独居高齢者の問題 高齢者の生活問題 独居高齢者のひきこもり解消 高齢者が安心して暮らせる町づくり 高齢者のコミュニケーションの場づくり</p>	<p>日頃から近所同士で交流を持つ。 近所の人気が掛けるようにする。 周囲の人が関心を持つ。 安否確認を心がける。</p>	<p>近所が支え合う。 隣り近所で普段からのつきあいをする。 声掛け運動を広げる。 新しく来られた方には積極的に声を掛ける。 いろいろな行事を開催し参加してもらい、地域の方と関わりを持ってもらう。 新聞配達・郵便局員・世帯を訪れる周囲の人と地域住民で協力する。 安否確認のシステムをつくり地域で支え合う。 友愛訪問活動、いきいきサロンの充実。 居場所を近所で作っておく。 空き地の活用。 公民館等を集める機会をつくる。 高齢者が必要としていることを把握する。 独居高齢者等の居住状態地図の作成。 防災のための地域連絡網をつくる。 民生委員・在宅福祉員・自治会長の情報の共有化。 介護講座やボランティア講座などに参加し、住民自身が知識をつける。</p>	<p>自治会加入の促進する。 コミュニケーションの取れるような仕組みを作って欲しい。 団地住民と地域住民の話し合いの場を持ってもらう。 地区と地区の交流会の開催。 集れる場所の整備、空家、自治公民館の活用。 民生委員の主体的な訪問。 高齢者等の情報を自治会長、民生委員に提供して欲しい。 転出、転入を自治会長に連絡してほしい。 在宅福祉員の研修、在宅福祉員制度等の強化。 新聞配達・郵便局員などと連携を取り、安否確認などに気を配ってもらう。 巡回バスを走らせる。 NPO、ボランティア等で高齢者の移送サービス実施する。 緊急通報装置の支給。 緊急時には行政・自治会・公民館等が連携できる体制づくり。 災害時の自治会の役割を啓発する。 高齢者に対しての実態把握アンケート調査。 高齢者サービスの種類や内容の啓発。</p>
課題	個人	地域住民	行政・社協・専門機関
<p>認知症世帯への対応 認知症高齢者の徘徊の問題</p>	<p>日頃から気配り・声掛けをする。 火事の心配があるので電化製品にしてもらう。</p>	<p>状況把握をしておく。 名札などをつけるように指導体制をつくる。</p>	<p>認知症というものへの理解を深めてもらうために研修会、広報活動をする。 在宅介護支援センターなど相談機関を活用するように周知する。</p>

課題	個人	地域住民	行政・社協・専門機関
<p>地域の連携 人間関係の希薄化 近所のコミュニケーション問題 地域のネットワーク 高齢者と若者の交流 自治会未加入者について 門札を掲げていない家が多い</p>	<p>声を掛ける・あいさつ。 目配り・気配り。 人と人のつながりの大切さを再確認する。 門札を掲げる意識を持つ。 困っている人の把握。 ボランティアに参加する。 認知症などを良く知ることが高齢者と接することができる。 親と子供中心とした子育て。 隣り近所の関わりを持つ。</p>	<p>自治会加入促進を図る。 気軽に参加、行こうという気持ちになれるような企画をたてる。 地域のみんなで話し合う機会をつくる。 公民館活動への参加の呼びかけ。 目的は違っても同一地域にあるグループを相互につなぐ。 グループをまとめるリーダーの発掘。 参加してもらい易い行事の企画をする。 地域のイベント等で門札を出すよう周知活動をする。 アパート内で班長を決めて指導してもらう。 ボランティアグループを組織する。 元気な高齢者を活用する。 近所の人普段から気をつけてみる。 地域のリーダー育成。 住民同士が情報交換ができる場をつくる。 みんなが、協力したくなるような仕組みを作る。 自治会役員の組織も考える。 町内で高齢者と子供が交流できるイベント作り。 イベントに参加し、近所の輪を作っていく。 地域の行事に親子で参加する。 自治会単位だけでも情報を持つ。 地域でマニュアルを作成する。</p>	<p>行政として地域住民活動に協力する。 集会所の確保。 公民館のトイレの改修。 地域活動への助成金の増額。 自治会加入を米子市としてバックアップする。 リーダー研修会の開催。 不動産業者に、アパート住民に門札を出すよう啓発してもらう。 市報で啓発活動をしてもらう。 市役所に転居届を出される際にシール等を配る。 各種ボランティアグループ・団体をつなぐ。 支援する網を縦横にかけておく。 配食サービスを利用したコミュニケーションづくり。 認知症についてのPR。 子供の活動組織の支援者、指導者の育成。 アンケートなどにより正確な情報を提供して欲しい。 集ったときのアドバイスやメニューおよび内容の相談にのってほしい。</p>
<p>福祉サービスの対策 介護者への支援がない 生活困難世帯に対する周知・啓発活動 在宅福祉サービスをする立場の人が少ない 福祉サービス制度の内容がわかりにくい</p>	<p>介護の勉強会等に参加する。 近所付き合いを普段から進める。 在宅福祉に関心を持つ。 自分で積極的に情報を得る。 身近な人に気軽に聞ける人を作っておく。</p>	<p>地域の人と話し合うことの出来る環境づくり。 在宅福祉員や介護相談員的な人を自治会ごとに配置する。 地域のネットワーク作りをすすめる。 民生委員活動等の中で関わってくれる人を増やす。 地域の人に聞かれたら自分が知っていることを伝えたり説明をする。 地域のリーダー、世話役を発掘する。</p>	<p>国民年金で入れる施設を作って欲しい。 自営業者の老後について考えて欲しい。 支援センター等の周知広報活動を進める。 公民館に出向いて勉強会等を開催する。 リーダー研修会の開催。 地域と行政と一体となった懇談会の開催。 活動のPR。 ボランティア活動に取り組む仕組みづくり・補償制度。 どういうところが分かりづらいのかチェックする。</p>

課題	個人	地域住民	行政・社協・専門機関
<p>ゴミの問題 ゴミの不法投棄 ゴミ収集の公平化 近所の雑草などについて</p>	<p>モラルの向上。 家庭教育・道徳心向上。 みんなで監視する。 声掛けをする。 ゴミの分別の重要性を認識する。 ゴミ袋に名前を記入する。 出すゴミを少なくする。 家の周りを清掃しポイ捨てしにくくする。 分別の方法を教えてあげる。 意識改革をはかる。 ゴミが発生しない買い方。 自分の環境は自分で整える。</p>	<p>勉強会等をして認識を深める。 自治会加入を促す。 集積場の管理・当番。 草刈りをマメにし不法投棄が出来ないようにする。 草刈りボランティアを募る。 地区独自のシルバー人材センター的なものの立上げ。 分別が出来ない方に指導をする。 高齢者、障がい者等のために収集場まで持っていくボランティアを募る。 地域で意識を持って取り組む。 一斉掃除のときなどに自治会で協力し合う。 近所同士で助け合う。 ごみ分別の出来ない方の手伝い。</p>	<p>幼いころからゴミ分別の方法を遊びながら学べるようにする。 行政からも自治会加入を促す。 問題点を広報して市民に分かるようにする。 不法投棄の現場にカメラ等を設置する。 ボランティア組織づくり・支援。 ごみ袋への名前記載の義務化。 カラス対策。 分別の簡素化。 ゴミ収集場を増やす。 個人収集を図る。 高齢者・障がい者の人への配慮。 ゴミの問題・分別などの勉強会。 学校教育の中で学習してもらう。 高齢者等へゴミ分別実習。</p>
<p>防災・防犯に関すること 子どもの問題(防犯)</p>	<p>不審者等が出る時間帯にイヌの散歩。 ジョギングの時間を合わせてもらう。 夕刻・夜は1人であるかない。 あいさつ運動。 不審者と思う人にも積極的に声を掛ける。</p>	<p>青パト等を設立をし巡回する。 防犯パトロール隊みたいな組織をつくる。 子どもと知り合いになれる行事を企画する。</p>	<p>防犯灯のとりつけ。 警察の巡回をもっと増やしてもらう。 通学路等に外灯をつける。 信号の設置。 線路の防護柵設置。 通学路の外灯設置。</p>
<p>子育てについて 子育て支援について</p>	<p>声を掛ける。</p>	<p>安全パトロール、居場所づくり。 実態把握。 子どものいる家庭を孤立させない。 空き地の活用。 声掛け・あいさつをし顔見知りになる。 地域にあるサービスを活用できるように広報活動をする。 母親同士が悩みを聞きあえるような場所を提供する。</p>	<p>居場所づくり。 保育園の増設。 施設への助成。 保育料の軽減。</p>
<p>マナーの問題 イヌ・猫のフンの処理に対して マナーが悪い</p>	<p>家のしつけ。 注意をする。</p>	<p>家庭・学校・地域が協力して指導していく。 自治会で話し合いをする。</p>	<p>米子市の罰則条例をつくる。</p>
<p>民生委員の立場から、行政からの個人情報取得が困難になった</p>	<p>普段から地域を見廻しておく。 日頃からあいさつをする。 変わるときには引継ぎをする。</p>	<p>自治会長から情報を得る。 日常信用してもらえる様に地域の活動に顔を出す。 自らも地域の情報収集をする。</p>	<p>調査依頼があってもだれがどこにいるかわからないので、最低限の情報を教えて欲しい。</p>